

特集

トップ
インタビュー

市民の暮らしを
安らぐ

まちづくり



今回は曾於市の五位塚剛市長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンや自身の健康法等について、お話を伺った。

豊かな自然の中で
みんなが創る 笑顔輝く
元気なまち

—曾於市における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

本市は、第2次曾於市総合振興計画において、「豊かな自然の中でみんなが創る 笑顔輝く元気なまち」を将来像に掲げ、「自助・互助・公助」の精神を、まちを構成するすべての者が再認識し、お互いの役割を担いながら、それぞれの個性を活かして主体的に生き生きと活動するまちづくりを推進しています。

本市には先人から受け継いできた歴史と文化、豊かで美しい自然環境とその恵みを活かして発展してきた産業、そして本市に暮らす人々や地域の絆など多様な地域資源を持っています。これらを最大限に活用することに

より、新たな時代に適合した本市独自の地域文化や産業などの振興を図るとともに、高度情報化や国際化等の新たな時代の変化に対応した教育や生涯学習の環境整備に力を注いでいます。健康に重点を置いた政策では、健康・福祉の基本方針を「市民のこころ安らぐまちづくり」「健康的、清潔で快適な市民生活を送れるまち」と定め、健康増進法に基づく第3次曾於市健康増進計画および高齢者の医療の確保に関する法律に基づく第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）、さらに曾於市後期高齢者医療保健事業実施計画を策定し、保健事業を包括的に取り組むことで、市民の健康寿命の延伸および医療費適正化を図っています。

また、健康日本21（第3次）の新たな視点「女性の健康」に重点を置き、今年度から総合健診に骨粗鬆症検診（無料化）を導入するなど、ライフステージに沿った保健事業を展開しています。

地域医療に関しては、高齢化率43・5%と高く、生産年齢人口の減少で更に高齢化が進み、医療と介護

TOP
Interview

曾於市長 五位塚 剛

の複合ニーズをもった高齢者の増加が見込まれる中、医師の高齢化による閉院、また医療・介護人材不足と医療をめぐる環境は厳しい状況です。

また、本市は県境に位置しているため、県を越えての広域的医療体制を図りながら、市民にとって24時間安心・安全な医療体制の維持に努めています。

今後も、持続可能な医療体制整備が重要となっていくことから、曾於保健医療圏である医師会および自治体が協働して、現状の課題と将来予測を分析し、今後の地域医療を検討していく予定です。また、多職種協働による在宅医療・介護の連携を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心して最期まで暮らし続けることができるよう努めていきたいと考えています。

官民一体となる保健事業に 取り組んでいく

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

特定健康診査受診率向上対策について、特に40～50代の働き盛りの受診率が20%前後と低く、20歳代の健診の機会がないことから、20歳からの受診の機会を設け、待ち時間の短縮と受診しやすい健診体制の提供を図る目的で、若年限定の受診日や、個別健診の受託医療機関の拡充等に努



一体的作業部会の様子

めています。

更に継続受診率が低いことから、20～59歳の特定健康診査受診者に対し「受診率アップキャンペーン」として地域振興券を付与し、受診の動機づけや受診の習慣化を目指しています。

次に、生活習慣病予防および重症化予防について、高血圧治療者数が約4,000人と一番多く、外来医療費では2位を占め、高血圧疾患からの重症化と思われる脳血管疾患・虚血性心疾患・慢性腎不全が増加していることから、「高血圧対策」を重点課題としています。

その対策の一つとして、特定健診にナトリウム比検査を導入し、ナトリウムとカリウムを数値化し、令和6年度には、野菜摂取量推定測定器（ベ

ジメータ）を導入しました。数値で「見える化」した保健指導等で、本人の気づきから生活習慣の改善への動機付けとしています。

更に、高齢者対策として、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業に取り組んでいます。本市の特徴として、地域の専門職や関係機関と多職種による協働事業を展開しています。

保健事業を効果的に進めるために、薬剤師・栄養士・リハ職・歯科衛生士等を構成メンバーとする作業部会を設置し、P D C Aサイクルに沿った事業を実施しています。より身近な相談窓口としてスーパードラッグやJA、医療機関等に向くアウトリーチ型支援「そお暮らしの保健室」を開催し、支援の必要な人を関係機関に繋いでいます。他にも、アウトリーチ型支



「そお暮らしの保健室」の様子

援の一つとして、通信システムを積載した自動車「コネクテッドカー」を九州で初めて導入し、高齢化や交通の



九州で初めて導入された「コネクテッドカー」

便等を理由に健康診断を受診しに来られない方々に対して、血圧測定など簡易的な検査がその場で受診できるように取り組みも実施しています。

人生100年時代と言われる昨今、今後も健康寿命の延伸を目指し、より一層官民一体となる保健事業に取り組んでいきたいと考えています。

健康の秘訣は毎日を楽しむ生きること！

市長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃるごことがありましたらお聞かせください。

私は、中学2年生の時、柔道の練習で足を痛めて、2か月くらい入院したことがあります。それ以外現在まで体調を崩して入院や手術をしたことはほとんどありません。健康について特に意識していることはありませんが、現在、米40a、ゆず20a、桑茶40aを栽培し、趣味の農業に精を出しているほか、夏場は朝5時過ぎに犬の散歩をして、水田や畑を見回りながら体を動かしています。桑茶は健康食品として静かなブームがあり、冷たい水に溶かして飲むと爽やかです。仕事は、その日のうちに解決するよう手を打つことを心がけ、思い悩むことを極力減らすことでストレスを溜めないようにしています。仕事の後は、曾於市のおいしいお肉や野菜を食し、時には酒を酌み交わしながら、

色々な方と市政や農業、夢について語りあつたりしています。人生よくよせず、毎日を楽しく生きることが健康の源となっています。

最後に何か曾於市のPRがございましたらお聞かせください

曾於市は、鹿児島県の大隅半島の地域であり、宮崎県都市との県境に位置し、人口約32,000人、世帯数約17,000世帯の畜産を中心とする農業のまちです。

総面積390km²の内、59%の230km²が山林であり、田畑の農地が14%の53km²です。畑地かんがいの水を利用した農作物の営農推進を進め、焼酎用の甘藷・大根・白菜・里芋・レイシ（ゴーヤ）・ゴボウ・スイカ・ゆずなど多種の農作物が出荷されています。

令和5年の農業総生産額は約530億円であり、その内、85%の450億円が畜産の鹿児島黒毛和牛・鹿児島黒豚・ブロイラーの生産額になります。令和4年市町村別農業産出額では、全国10位となりました。ゆずの生産を、高齢者生きがい対策で始め、作付面積では97ha、生産量が1,281tです。市町村単位では、九州一の生産量になると考えます。現在ゆずを使った加工品を増やし、特産品化を進めております。特に曾於市認定ブランドの「ゆずノンオイルドレッシング」はテレビでも紹介され

薄になるなど大好評です。

ふるさと納税制度を更に活用し、黒毛和牛肉・黒豚・しゃぶしゃぶセット、そして、ゆずの調味料・ゆずそおダー（ゆずソーダー）・焼酎など特産品の贈呈を行っています。たいへん人気の状況です。是非、曾於市へふるさと納税の支援をお願いいたします。企業版ふるさと納税につきましては、令和3年度から令和5年度までに2億円を超える寄附金をいただきました。この活動に対しまして、地方創生大臣からも高い評価をいただいております。

観光では、毎年11月3日に大隅町で鹿児島県下の三大祭りとして、全長約5mの大男『弥五郎どん（やごろうどん）』が、勇ましい姿で市内を練り歩き、名物である高架橋くぐりのイナバウアーが始まると、観客の歓喜の声と拍手であふれる、約900年の歴史がある弥五郎どん祭りがあります。祭り当日は、市内外から10万人近くの観光客が訪れる大イベントです。

その他、11月の第3日曜日に末吉町では、鎌倉時代の巻狩姿の騎手が参道で馬を馳せ、馬上から弓を引き3か所の的を狙う、県の無形民俗文化財に指定されている流鏑馬（やぶさめ）が行われ、同じ11月に財部町では、悠久の森ウオーキング大会が開催され、全国遊歩百選の森に認定された大川原峽の悠久の森は、自然の中

で森のせせらぎや照葉樹林を満喫できる遊歩道が、往復約7km続き観光スポットとなっています。

令和6年4月には、旧財部高校跡地に整備していた「南九州畜産獣医学拠点」(SKL...スクラブ)の運営が始まりました。スクラブは、畜産獣医学の実践的教育を行い、産業動物獣医師の人材育成・人材確保を図るとともに、交流人口の増による地域活性化を図ることを目的に整備いたしました。乗馬体験もできるトレッキングコースやポニー・ミニチュアホースとふれ合える広場もありますので是非来場いただき楽しんでいただければと思います。

他にも、末吉の道の駅には、日本一の牛の親子のモニュメントがあります。パワースポットとして人気の国指定文化財である財部の溝ノ口洞穴や悠久の森などの素晴らしい自然や、伝統文化、自然豊かな食材がたくさんあります。JR（3つの駅があります）、高速道路（2つのICがあります）、空路（空港から40分です）をご利用いただき、是非、曾於市へ足をお運びください。大歓迎でお待ちしています。